

「JENESYS2.0」

中国大学生訪日団第26陣

訪問日程 平成28年3月8日（火）～3月15日（火）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国大学生訪日団第26陣計99名が、3月8日から3月15日までの7泊8日の日程で来日しました。（団長：程海波（テイ・カイハ）中国日本友好協会 副秘書長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、東京都、神奈川県、京都府、滋賀県を訪問し、日本の大学生や地域の市民との交流の場を通じて、友好交流と相互理解を深めたほか、日本の囲碁・ファッションデザイン・音楽に関するプログラムや環境・歴史・文化・社会等様々な視察、見学を通じ、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

3月8日（火）

成田国際空港より入国

浅草寺見学（第1グループ）、お台場見学（第2・3グループ）、オリエンテーション

3月9日（水）

第1グループ：公益財団法人日本棋院訪問、日中囲碁交流

第2グループ：能楽に関する講義（矢来能楽堂）、文化学園大学訪問・交流

第3グループ：能楽に関する講義（矢来能楽堂）、洗足学園音楽大学訪問・交流
歓迎会

3月10日（木）

第1グループ：早稲田大学キャンパスツアー、池袋防災館視察

第2グループ：皇居・二重橋見学、三菱一号館美術館視察、本所防災館視察

第3グループ：サントリーホール訪問、有明清掃工場視察

京都府へ移動

3月11日（金）

第1グループ：日本文化体験（餅菓子づくり、琵琶弾き語り鑑賞）、日中学生囲碁交流

第2グループ：日本文化体験（着物着付け）、高台寺見学、京都外国語大学学生との交流
（龍安寺、金閣寺見学）

第3グループ：日本文化体験（餅菓子づくり、琵琶弾き語り鑑賞）、龍谷大学混声合唱団
との交流

3月12日（土）

清水寺見学、三十三間堂見学、伏見稲荷大社見学、滋賀県へ移動

農村体験・ホームステイ

3月13日（日）

農村体験・ホームステイ、和風温泉旅館での日本文化体験

3月14日（月）

東京都へ移動

お台場見学（第1グループ）、若者ファッション（原宿）視察（第2グループ）、
楽器専門店（銀座）視察（第3グループ）、商業施設視察、歓送報告会

3月15日（火）

第1グループ：東京タワー見学、皇居・二重橋見学、東証 Arrows 視察

第2グループ：株式会社オンワード樫山訪問、東京タワー見学

第3グループ：東京タワー見学、皇居・二重橋見学

羽田国際空港より帰国

3 写真



3月8日 お台場見学（東京都）



3月8日 オリエンテーション（東京都）



3月9日 遠藤喜久観世流シテ方能楽師による講義（東京都）



3月9日 遠藤喜久観世流シテ方能楽師による講義（東京都）



3月9日 公益財団法人日本棋院訪問、日中囲碁交流（東京都）



3月9日 文化学園大学訪問・交流（東京都）



3月9日 洗足学園音楽大学訪問・交流（神奈川県）



3月9日 歓迎会 中原邦之外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課地域調整官挨拶（東京都）



3月9日 歓迎会で挨拶する程海波団長（東京都）



3月9日 歓迎会でパフォーマンス披露する団員（東京都）



3月10日 早稲田大学キャンパスツアー
(東京都)



3月10日 三菱一号館美術館視察 (東京都)



3月10日 サントリーホール訪問 (東京都)



3月10日 池袋防災館視察 (東京都)



3月10日 本所防災館視察 (東京都)



3月10日 有明清掃工場視察 (東京都)



3月11日 日本文化体験（餅菓子作り）
（京都府）



3月11日 日本文化体験（琵琶弾き語り鑑賞）
（京都府）



3月11日 日本文化体験（着物着付け）
（京都府）



3月11日 日中学生囲碁交流（京都府）



3月11日 京都外国語大学学生との交流
（京都府）



3月11日 龍谷大学混声合唱団との交流
（京都府）



3月12日 清水寺見学（京都府）



3月12日 三十三間堂見学（京都府）



3月12日 伏見稲荷大社見学（京都府）



3月13日 農村体験・ホームステイ
（滋賀県日野町）



3月13日 農村体験・ホームステイ
（滋賀県日野町）



3月14日 歓送報告会 訪日成果報告
（東京都）

	
<p>3月15日 株式会社オンワード樫山訪問 (東京都)</p>	<p>3月15日 東京タワー見学(東京都)</p>
	
<p>3月15日 皇居・二重橋見学(東京都)</p>	<p>3月15日 東証 Arrows 視察(東京都)</p>

4 参加者の感想(抜粋)

○今回の訪問は、日本や日本文化について私たちにより多くのことを紹介し、多彩な交流が行えるように、スケジュールがびっしり組まれていた。一番印象に残ったことを挙げるならば、ホームステイだ。誰もがホストファミリーとは笑顔で対面し、泣きながら別れていた。わずか1泊2日、24時間という短い時間で、深く、離れがたい絆を築いたことが見て取れる。私と他の3人が一緒にお世話になった家庭は、お子さんたちがすでに独立してしまい、おじいさんとおばあさんだけで暮らしている家だった。1日目の夜は一緒に餃子を作った。中国と包み方が違ったので、お互いの包み方を教え合った。いつもは10数個が精一杯の私たちが、この日は20~30個の餃子を食べた。そして、ホストファミリーがわざわざ琴の先生を招いて日本の琴の演奏を聴かせてくれた。2日目は和服を体験させてくれた。とても温かくて穏やかなおじいさんとおばあさんで、私たちを家族のようにもてなしてくれた。

日本棋院の訪問と、日本の棋士との交流は、この訪日でとても期待していたプログラムだ。勝敗に関わらず、両国の若手棋士が交流する機会は何だかんだで得難いものだった。

様々なふとしたことから、日本人の温かさや細やかさを感じることができた。日本は清潔で、国民は一般的教養と意識が高かった。私たちが彼らに学ぶべきだと思う。

○訪日期间中は、有名な観光スポットをたくさん訪れ、日本の大学生や棋士、一般の方々と交流した。印象に残っている場面はたくさんある。日本の街は、賑やかでも秩序を失わない。東京の賑やかな商店街と、滋賀県の魅力的な自然の両方を兼ね備えている。

日本棋院での交流は、今回の訪問の最重要プログラムだ。日本棋院のプロ棋士や有名大学の学生との囲碁交流では、たとえ言葉は通じなくても、囲碁に国境はないと感じた。碁盤の上の一手一手にそれぞれ意味があり、囲碁の一局というのは、思考が何度もぶつかり合い、作り上げられるものだ。そんな囲碁には尽きせぬ楽しみがある。

もう一つ印象に残っているのは、滋賀県でのホームステイ体験だ。私たちをもてなしてくれたのは、一般的な日本の家庭だった。私たち4人は誰も日本語が話せなかったが、辞書やボディランゲージで交流を図り、あっと言う間に打ち解けた。ホストの温かなもてなしから、たくさんの感動を頂いた。たった1日の短い時間だったが、別れはとても名残惜しかった。帰国したら、今回日本で見聞きしたことをみんなに伝え、日本に遊びに来よう薦めたい。

○8日間の活動が終わろうとしている。楽しい時間というのは、常にあっという間なものだ。日本人の一般的教養の高さに感動し、非常に強く大きい民族だと感じた。たくさんの場所を訪れたが、防災館で見た2011年に日本で起きた地震の記録映像が印象に残っている。日本に来る前は、この未曾有の自然災害について余り理解していなかった。学校で学ぶ教科書の内容の影響もあり、日本に対して余り好感を持っていなかったが、この短い記録映像を見て私は泣いた。自然災害を前にした日本人の団結心にとても感動した。また、中国で起きた四川地震やその際の日本人からの援助を思い出し、両国の関係は今のよう緊迫した状態にあるべきではないと感じた。21世紀は新しい時代であり、社会は進歩している。両国間の友好関係があつて初めて、これから末永く共に歩むことができる。中国の国民が日本の印象を永遠に歴史の中にとどめておくことのないように望む。前を向いている社会だけが発展を遂げられる。国が栄えるかどうかは国民の力にかかっており、物事の良さに気付くことのできる目を持っているかどうかが一番重要だ。

○今回日本を訪れて最も印象に残ったことを挙げるとしたら、美しい、清潔の2つになると思う。私は水が好きだが、日本に来てとても驚いたのは、至る所に川や林があることだ。川の水は「底が見えるほど澄み切っている」と言い表すほかないほど美しい。中国の木々や水を見慣れていると、昔の人が言った「水は川底が見えるほど透明で、魚がいたりきたりする様子や、川底に重なる石ころまでも一望できる」(南朝の詩人・呉均の詩の一節)という言葉は大げさだと思っていたが、今では信じられる。また、日本ではどこでも礼節を重んじることにとても驚いた。中には不便なところもあったが、中国の現在の状況では日本のレベルで物事を行うのは難しい。日本の街は賑やかだが、騒がしいとは感じず、田舎の生活も、中国の大部分の農村の生活より豊かだった。日本の環境保護意識も非常に印象深く、猿や猪、鹿までいる。もし日本を形容するなら、清

潔、効率的、美しい、礼儀正しいと言うだろう。

日本での活動は愉快で楽しく、また、日本の風土、人情、文化を体験することができた。機会があればまた訪れたい。

○今回の訪日では得たものが多く、日本や日本人に対して非常に良い印象を持った。日本人は温かくもてなし好きで、時間厳守の意識が強く、社会インフラは整い、景色も美しい。一番印象に残った活動はホームステイ体験だ。

日本の一般市民の生活にここまで間近で触れたのは初めてだ。夕食のときには、初めて寿司を作った。言葉は通じなかったが、ホストファミリーは辛抱強く手本を見せてくれた。食事の後には、様々な頭脳ゲームを用意してくれていたり、小さな手工芸品の作り方を教えてくれた。その上、骨董品のコレクションや、手作りの工芸品を見せてもらい、私は驚かずにいられなかった。ホストファミリーの家は、まるで小さな展示館のようだった。

一晩の心地良い眠りの後、翌日はホストファミリーの下で木工体験をし、私たちはかわいい竹とんぼを作った。

準備万端で細やかなお世話をしていただいた。将来機会があれば、またホストファミリーに会いたいと願っている。

清水寺、三十三間堂等、風光明媚な場所も訪れた。晴天にも恵まれ、美しい風景を堪能できた。

中国に帰ったら、友人たちに自分が日本で見たり聞いたりしたありのままを伝えたい。中日両国民の関係が正常化に向かい、改善されていくことを望む。

○日本に来る前、日本人について知っていることは多くはなかった。非常に礼儀正しく、一般的教養の高い人々だということだけ知っていたが、偏った理解にすぎなかった。日本に着いてから、この国の人々の一般的教養の高さは内面から現れているものだと実感した。まるでこの国に生まれたというだけでもう一般的教養を身につけているかのようで、とても感動した。

私の専門分野の囲碁について言えば、プロの棋士として、囲碁を芸術の観点から捉えた今回の活動に参加することができ、とても光栄で誇りに思う。御存じのように、囲碁の世界では、ずっと中国、日本、韓国の3カ国がしのぎを削ってきた。急速な時代の変化に伴い、中国と韓国は勝敗だけを重視するようになった。しかし、日本では、勝負を基本としながらも、囲碁の道という文化をきちんと保存している。我々も学ぶべきだと思う。

○東京の文化学園大学の視察から日野町のホームステイに至るまで、どの体験も忘れ難い。文化学園大学では、同大学内の服飾博物館やファッションリソースセンター、文化・衣環境学研究所などを見学した。見学して気付いたのは、この大学では衣服をデザインする際、着る人がそれをまとってどう感じるかを重視することだ。服のデザインのコンセプトや美しさだけではなく、歩く姿勢から気温や環境まで計算してデザインしていた。

こうした部分は、私たちも学ぶべきだ。また、ファッションリソースセンターでは、資料を様々なカテゴリー別（時間、地域、デザイナーなど）に分類しており、どのような資料でも学生たちが簡単に見つけられるようになっていた。

日野町でのホームステイでは、愛すべきおじいさん、おばあさんにお世話になり、まるで家族のように接していただいた。山へキノコ採りに連れて行ってもらったり、畑で野菜を収穫したり、食器洗いや食事の支度をしたりと、日常のことを一緒に行う中で、だんだんと親しくなっていく。また、おばあさんは、貼り絵や金属画などを作っており、以前は生け花の先生をされていたと知った。私たちに押し花のしおりの作り方や、キーホルダーの作り方など、様々なことを教えてくれた。

最後に、この忘れ難い交流活動に是非また参加するチャンスがあればと思う。自分の体験や見たこと、感じたことを友達に伝え、機会があれば彼らも是非自分の足で日本を訪れ、日本の文化を体験してもらいたい。

○印象に残っていることがたくさんありすぎる。

日本に到着してまず最初に感じたのは、日本全体の環境の美しさ、清潔さだ。また、国民一人一人が制服を身につけ、みんな気力に満ちている。日本は本当に礼儀を重んじる国だった。

文化学園大学でファッションを学ぶ学生と直接交流することで、彼らがどんな学習をしているのか知ることができた。一番感銘を受けたのは、小さな頃から培われた団結力と助け合いの精神だ。個人の成功は成功ではなく、大事なのは他人のため、集団のために何かを成すことだ！

お寺や神社には中国の唐代や宋代の文化が数多く残されており、中国文化の影響が見て取れ、非常に感慨深かった。

今日訪問したオンワード樫山は、本当に先進的な企業だった。ハード面、ソフト面とも進んだ設備に驚いた。

日本の全てが印象深く、私にとってこの訪日が貴重な思い出になることは間違いない。

○日本人は一般的教養が高く、人には笑顔で接し、何かをするときは意欲的かつ理にかなった行動をとる。見ず知らずの相手であっても会釈をするし、サービス業の対応は顧客のことを配慮し尽くしている。もし街で道を尋ねれば、途中まで案内してくれたり、地図を描いて説明してくれる。歩道をふさぐような行為もなく、道幅は狭いが、自転車と歩行者が秩序正しく共に歩道を利用している。

大都市の東京であれ、地方の日野町であれ、また、大都会か農村地域かにかかわらず、不潔な場所は見当たらない。都市の道の両脇には木々が茂り、花が咲いている。地方に行けば、田畑にはあぜ道が無尽に走り、空気は新鮮で、青い空と白い雲が背の低い家屋にマッチしており、美しくリアルな田園風景を目にすることができる。都市の緑化面積は広く、森や公園もたくさんあり、松の木は可愛らしいデザインに剪定されている。どこに行っても空気がきれいで、遠方まで見渡すことができる。

公共の施設は人に優しい設計で、公衆トイレもとても清潔だ。お店の前にはビニール

の傘袋が準備されている。ホテルのバスルームの鏡には、部分的に温度が変わっても結露しない工夫が施されていた。お風呂は日本では最高のもてなしで、どの家庭にもバスタブがあるし、部屋の中にも外にも塵一つ落ちていない。

日本には伝統と歴史遺産がたくさんある。和服を着ることを好み、和服を着て古い街並みを歩き、昔ながらの礼儀や儀式を執り行う。

日本の強さには理由がある。我々中国の若い世代も学ぶべきところは多い。

○日本に御招待いただき、文化交流に参加することができて、とても光栄に思う。今回の訪問は、私にとってとても意義あるものになった。出発前は日本について余りよく知らなかったが、到着1日目からこの国が大好きになった。一番印象深かったのは環境で、日本の環境は本当に良く、清潔だ。日本に着いて最初に向かった場所は、日本側によるオリエンテーションだった。周到に準備されたもので、高層階に位置していた会場からは東京全体が一望できた。

私は本当に日本が大好きになった。大学生との交流では、彼らはとても親切で両国の大学生の友情を感じた。文化や言語などについておしゃべりし、連絡先を交換し合った。今後も連絡を取り続けると信じている。また、学生ガイドの皆さんは様々な寺社を案内してくれた。私たちは和服を着せてもらい、日本の文化を感じることができた。自分が和服を着た姿はとても面白かった。日本人には団結力と、文化保護と民族へのプライドがある。この一週間で感じたことは数え切れず、どれだけ言葉を尽くしても言い表せない。また、ホームステイを経験させてもらったことにも感謝したい。よりその土地の生活に密着して日本を知ることができた。今はとても離れ難く、心には感謝の言葉しかない。

○今回の訪問で最も印象深かったのは、日本人の伝統文化の保護に対する姿勢だ。通訳ガイドの話から、日本人は伝統文化の保護にできる限りの努力をしているのだと分かった。伝統建築を保護することで歴史的遺産を守り、能楽を結婚式など日常生活に取り入れることで高尚な芸術を国民全体に浸透させ、賑やかな祭を執り行うことで先祖が積んだ徳を祝う。こうした伝統文化の継承という部分で、私たちも学ぶべきところがたくさんある。

簡単に言うと、日本では、文化の保護と継承の意識が国民一人一人に根付いている。中国では、まだまだ政府がそうした意識を推し進める努力をしている段階で、国民の意識はまだ薄い。一つ例をあげよう。今回の訪問では、滋賀県日野町の一般家庭でホームステイをさせていただいたが、私たちのグループは年配の御夫婦のお宅でお世話になった。おじいさんは、アルバムや冊子などを使い、その土地の歴史や発展の経緯、地元の歴史的人物や、町民たちによる盛大なお祭り・日野祭について紹介してくれた。また、日野祭で神輿が巡行するルートを参観したほか、歴史的人物の故居などに連れて行ってくれた。

こうしたちょっとした部分から、日本人の伝統文化に対する尊敬の念を感じ取った。国民全体で保護するからこそ、かつてのような輝きを今日でも守ることができるのだ。

中国と日本の伝統文化の間には密接な関係がある。日本の伝統は、国民全体の保護の下で発展したが、私たちも国民全体で努力をすれば、中国の伝統文化もどんどん盛り上がり、もっと輝いていくと思う。

○歴史や教育の関係で、これまで日本に対して余り好感を持っていなかった。ただ日本はとてもきれいで、発展した国で、国民の一般的教養が高いとは聞いていた。今回の経験を通して、それらをはっきり実感することができた。日本人は友好的で、礼儀正しく人と接してくれるので、とても温かい気持ちになった。インフラもすばらしく、非常に良い国だと思った。

文化学園大学を訪問して感銘を受けたのは、インフラの整った学校の環境だ。私自身ファッションデザインを学ぶ者として、まさにそこはデザインを学べる天国で、必要なものが全て揃っていた。日本の学生と交流して気付いたのは、彼らは必ずしも中国に敵対心を抱いておらず、中国の日本に対する敵視を理解できないことだ。中国の青少年もこれからは日本に偏見を持つことなく、互いに友好的な態度で付き合っていけることを望む。

○交流プログラムはとても充実していて、能楽を体験したり、洗足学園音楽大学を訪問したり、龍谷大学で交流を行ったりした。ほかにも、有明清掃工場や清水寺、三十三間堂等を参観したが、多くの交流プログラムの中でも、一番印象深かったのは、疑う余地もなくホームステイ体験だ。お互い全く知らないところから始まり、最後は別れ難い気持ちになるまで、中日両国の友好関係を体現するような経験だった。ホストファミリーの家に入ると、すぐにお父さんお母さんがいろいろとお世話してくれた。お母さんは丁寧にお寿司や手作りストラップの作り方を教えてくれた。夜は、私たちより遅く寝て、朝は私たちより早く起き、まるで自分の娘のように接してくれた。また、和服を着せてくれ、そのまま町のひな祭りの催しに出かけた。こうしたあらゆるおもてなしに感動した。お母さんは私がアコーディオン専攻の学生だと知ると、家の中にある古いアコーディオンを取り出してきて。私は、お父さんとお母さんのために何曲か演奏した後、一緒にホームステイしていたバイオリン専攻の学生、お母さんのオカリナと一緒に日本の民謡を合奏した。合奏することでより深い交流ができたと思う。言葉は通じなくても、音楽はお互いをハッピーにしてくれる。お別れの時は悲しくて別れ難かった。お父さん、お母さん、次に日本に来たとききっと会いに行きます！

日本の活動は終わろうとしているが、帰国したら学校の友達や親戚に日本でのことを話したい。日本は環境が良く、国民の一般的教養も高く、ホストファミリーは心を込めて世話をくださったと伝え、機会があれば彼らも日本を訪れ、両国の友好関係を増進し、互いの長所に学び合うよう伝えたい。

○この7泊8日は、私にたくさんの忘れられない思い出を残してくれた。矢来能楽堂での能楽セミナーも忘れられないし、洗足学園音楽大学での交流も忘れられない、サントリーホールでの壮麗さや、清水寺や三十三間堂の厳かな空気も忘れられない。しかし今回、

私が一番忘れられないのは、日野町でのホームステイ体験だ。

日野町で滞在した家は、おじいさんとおばあさんの二人住まいだが、きちんと整理整頓され、温かな家庭だった。おばあさんから日本料理の作り方を習ったり、おじいさんから日本の民謡を教わって、音楽のスキルも磨いた。一緒におしゃべりし、折り紙で鶴の折り方を習ったりもした。最も貴重だったのは、おじいさん、おばあさんと畑仕事をして、日本式の田舎暮らしを体験できたことだ。二人と言葉は通じなかったが、とても辛抱強く教えてくださり、こちらが理解できないときも、根気よく繰り返し教えてくれた。私には畑仕事の経験がなかったが、手取り足取り指導してくれた。御高齢にもかかわらず、夜遅くまでおしゃべりに付き合ってくれて、まるで本当のお父さん、お母さんのようだった。こうしたことが本当に感動的で、お別れのときは別れ難く、涙が出るほどだった。次に日本に来る機会があったら、日本のお父さん、お母さんに会いに行きたい！

帰国したら、日本の友好的で温かい人々のことや、進んだ科学技術、優れた伝統文化を友人たちに伝え、より多くの人々が日本を訪れて、日本の良さを理解してくれるように望んでいる。

○今回の活動で印象深かったのは、有明清掃工場の見学だ。日本のゴミ処理工場の仕組みや方法を学んだだけでなく、日本で行われているゴミの分別制度について知ることができた。中日両国の国民の環境保護意識とゴミ処理方法の大きな差を目の当たりにした。

まず処理工場に運ばれる前に、日本人は強い環境保護意識と法治主義の意識にのっとって自主的にゴミの分別を行っている。その執行能力の高さと分別の正確さは称賛に値すると思う。ゴミは各家庭で分別を行った後、専門の収集車で清掃工場に運ばれる。工場に到着すると二次分類が行われ、それぞれの種類に適した方法で処理される。ゴミは高温、圧縮、消臭等、ハイテクを駆使した方法で無害化される。視察時に質問して得た答えによると、有明清掃工場と同じタイプのゴミ処理場で発生する廃棄ガスや廃水、固体廃棄物等は政府が求める基準値を数倍も下回っており、更にそれらは二次利用されるという。

日本のこうした容易ではない環境保護の成功は、進んだ科学技術の成果だけでなく、国民の高い環境保護意識と自律の精神によるもので、この点は中国人も学ぶべきだと思う。

○以前は、日本というのは融通の利かない国で、誰に対してもうやうやしく、論理的な人ばかりいると思っていた。今回の訪問を通して、自分の見方が極端だったと気が付いた。日本人は規則を守り、他者に対する尊敬は互いの信頼の上に成り立っている。つまり、人と人との助け合いの上に成り立っているということで、とりわけ知らない者同士で交わされる温かさに、私はとても感動した。

上海音楽学院ピアノ専攻の学生として、専門分野の交流で得たものも大きかった。二度の学校訪問では、同い年の同じ専攻の学生たちのレベルと音楽に対する考え方を知る

ことができた。特に龍谷大学を訪れたとき、合唱団のメンバーが整列してこちらに向かって笑いかけたのを見て、音楽の魅力を改めて感じた。彼らは音楽専攻の学生ではないが、音楽を愛する気持ちは誰にも負けていなかった。サントリーホールを訪問して、10年後、きっとこの舞台の中央に立ち、みんなに私の音楽を届けたいと決心した。本当の意味でのソロコンサートを開きたい。この気持ちは私が前に向かって進み続けることができるよう後押ししてくれる！

○日本人の礼儀正しさと規律の良さは世界的にも有名だが、日本を訪れる前は、果たしてどの職業の人でもそうなのかどうか分からなかった。しかし、日本に来て、サービス業だけではなく、公的機関の職員たちも、立場の高い人から低い人まで、誰もが等しくそうなのだと分かり、尊敬の念を覚えた。

たとえ先進国でも、日本の都市部と農村部には格差があると思っていた。しかし、農村を訪れてみて、両者の差はわずかに生活リズムや生活スタイル上を感じるだけで、むしろ農村の暮らしは静かでより快適だと思った。

洗足学園音楽大学と龍谷大学の訪問では、専攻が同じ学生と交流できなかったことが少し残念ではあるが、違った観点でみれば多くの収穫があったと思う。洗足学園の教育方針においては、学生が自由にカリキュラムを選べるところに先進性があると思った。履修科目の強制を取りやめ、学生自身にとって意味がないと思える科目に時間を費やすことなく、専攻のスキルを磨けるようにしている。また、龍谷大学の合唱団はサークルではあるが、十分にプロ意識を持って取り組んでいた。自分にとって大事なものに対しては、強い関心を持って十二分に力を尽くさなければいけないのだと思った。

○この活動に参加する前から、日本人の環境に対する意識と、対外的な人との接し方については聞いたことはあったが、日本に来てみて、日本人は、たとえ知らない通りすがりの人に対しても温かく、環境保護にも積極的に取り組んでいることを身をもって感じた。

音楽学専攻の学生として、日本の伝統芸能、能楽のセミナーから得たものは多かった。芸術家の伝統音楽に対する保護と伝承、刷新の精神のお陰で、数多くの貴重な芸術的至宝が守られてきた。そうした精神は音楽学の研究も豊かにしている。中国の学者ももっと文化の伝承と刷新に力を入れ、研究を進めていくよう希望する。